



## 2019年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年5月14日

上場会社名 東海汽船株式会社

上場取引所 東

コード番号 9173 URL <http://www.tokaikisen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山崎 潤一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理担当 (氏名) 横田 清美

TEL 03-3436-1135

四半期報告書提出予定日 2019年5月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年12月期第1四半期の連結業績(2019年1月1日～2019年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第1四半期	2,408	1.5	298		286		187	
2018年12月期第1四半期	2,445	4.8	250		235		159	

(注) 包括利益 2019年12月期第1四半期 191百万円 ( %) 2018年12月期第1四半期 167百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第1四半期	85.59	
2018年12月期第1四半期	72.46	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第1四半期	17,528	5,099	28.5
2018年12月期	15,887	5,347	32.9

(参考) 自己資本 2019年12月期第1四半期 4,998百万円 2018年12月期 5,224百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期				20.00	20.00
2019年12月期					
2019年12月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は12月31日を期末配当基準日と定めておりますが、現時点では期末配当予想額は未定であります。

### 3. 2019年12月期の連結業績予想(2019年1月1日～2019年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,300	3.8	350		300		170		77.45
通期	11,700	2.1	150	14.1	200	12.7	120	19.1	54.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年12月期1Q	2,200,000 株	2018年12月期	2,200,000 株
期末自己株式数	2019年12月期1Q	5,069 株	2018年12月期	5,059 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年12月期1Q	2,194,936 株	2018年12月期1Q	2,195,046 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・期末の配当予想につきましては、今後も経営環境に不確定要素が多いため、現段階では前回発表と同様に未定とさせていただきます。なお、予想額は当社最多客期の第3四半期以降、状況を見極め速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、輸出や生産の一部に弱さもみられるが、雇用・所得環境の改善が続くなかで、個人消費は持ち直しているなど、景気は緩やかな回復が続くことが期待されました。一方、海外経済の動向と政策に関する不確実性など、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境は、見通しが立たない原油価格の動向や冬から春にかけて当社の航路を横断して進む南岸低気圧の発生、また、国内外旅行先としての東京諸島と他地域との競合の激化などがあり、依然として厳しい状況が続いております。さらに、東京諸島においては、少子高齢化の波は本土より進み、人口減少に歯止めがかからない状況となっております。

このような状況の下、本年11月に創立130周年の節目を迎える当社および当社グループは、事業の活性化策として、当社グループや東京諸島の「強みや魅力」の原点に目を向け、2013年より施策の方向性をスローガンとして掲げ取り組んでまいりました。2019年は「Revolution 2019 ～新時代への変革」を掲げ、急速に変化する社会情勢に順応し、過去にとらわれず変革していくこと、そして粘り強くチャレンジしていく年度としており、2020年夏の新造船ジェットフォイルと新造貨客船の就航に向け、東京諸島の島や海などの豊かな自然と星空の魅力を一層広め、1人でも多くのお客様にお越しいただき、リピーターとなって長期滞在していただけるよう、グループ全社で活動を続けております。主力の海運関連事業においては、よりお客様のニーズに合った「東京の島」ならではの企画商品の造成に努めて、営業活動と宣伝活動を拡大し強化を図ったことにより、旅客数は好調に推移しましたが、一方で、公共工事の減少に伴い貨物輸送量は伸び悩みました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、貨物輸送量が減少したことなどにより、売上高は24億8百万円（前年同期24億4千5百万円）、費用面で船舶燃料費の増加もあり、営業損失は2億9千8百万円（前年同期営業損失2億5千万円）、経常損失は2億8千6百万円（前年同期経常損失2億3千5百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億8千7百万円（前年同期純損失1億5千9百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### 《海運関連事業》

主力の海運関連事業の旅客部門は、東京諸島の島や海などの豊かな自然と、よりお客様のニーズに合った「東京の島」ならではの企画商品を造成し、営業活動と宣伝活動に取り組みました。さらに、企画商品においては、会社創立130周年に向けた記念プランを造成し、年初よりツアーを実施するなど旅客数の増加に繋げました。大島の最大イベント「椿まつり」においては、大島町と連携し、引き続き2016年に認定された「国際優秀つばき園」と伊豆方面の花のイベントをつないだ「海のフラワーライン」の営業展開を図りました。また、千葉港と江の島から「椿まつり」の大島への臨時航路を運航して集客活動に努めました。この結果、全航路の旅客数は好調に推移し、17万1千人（前年同期16万6千人）となりました。一方、貨物部門は、貨物輸送のホームページ上で、各種問い合わせに対する自動応答システムの導入や運賃のシミュレーション、生鮮食料品の受付状況の案内など、お客様の利便性向上と集荷効率の引き上げを図りました。また、各島の公共工事等の動向を注視し、集荷に遺漏がないように取り組みしました。しかしながら、公共工事の減少に伴い輸送量が伸び悩み、貨物取扱量は全島で6万8千トン（前年同期7万5千トン）となりました。

この結果、当事業の売上高は、17億5千3百万円（前年同期17億8千9百万円）、費用面で船舶燃料費の増加もあり、営業損失は1億3千7百万円（前年同期営業損失8千2百万円）となりました。

#### 《商事料飲事業》

当事業の中心となる商事部門は、島内外の取引先との連携を密にして情報共有を図ったことにより、島嶼向け燃料油や都内水族館向け海水などの販売が堅調に推移しました。この結果、当事業の売上高は3億3千万円（前年同期3億2千9百万円）、営業利益は2千6百万円（前年同期2千1百万円）となりました。

《レストラン事業》

東京湾周遊のレストランシップ事業は、お客様のニーズに合った企画提案や営業活動の強化を図りましたが、団体客・個人客ともに伸び悩み、全クルーズでの利用客数は1万9千人（前年同期2万1千人）となりました。この結果、当事業の売上高は1億5千3百万円（前年同期1億6千7百万円）、営業損失は9千5百万円（前年同期営業損失8千6百万円）となりました。

《ホテル事業》

大島温泉ホテル事業は、大島の豊富な海の幸の料理・高品質の源泉掛け流し温泉・露天風呂からの三原山の眺望やホテル屋上に星空を観望できる「三原山テラス」の施設など、「島の魅力」を前面に押し出した営業活動により「椿まつり」の期間を含めて、宿泊および日帰りの利用は好調に推移しました。この結果、当事業の売上高は1億2千6百万円（前年同期1億1千9百万円）、営業利益は1千6百万円（前年同期7百万円）となりました。

《旅客自動車運送事業》

当事業の中心となる大島島内におけるバス部門は、貸切バス安全性評価制度三ツ星認定のもと、安全運行に努めてまいりました。「椿まつり」においては、季節の人気定番商品の「国際優秀つばき園」を巡るコースのほか、フォトスポットである通称「バームクーヘン」と呼ばれている「地層大切断面」へ案内するバスツアーを加えて企画商品の充実を図り、利用客の獲得に注力いたしました。この結果、当事業の売上高は1億1千8百万円（前年同期1億1千4百万円）、営業利益は2千万円（前年同期1千万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債および純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は175億2千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億4千1百万円増加しました。その主な要因は、建造中の船舶等に係る建設仮勘定が16億2千3百万円増加したことによるものです。

負債は124億2千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ18億8千8百万円増加しました。その主な要因は、借入金が16億8千8百万円増加したことによるものです。

純資産は50億9千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億4千7百万円減少しました。その主な要因は、利益剰余金が2億3千1百万円減少したことによるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を適用し、財政状態については前期を遡及適用後の数値で比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年12月期の業績予想につきましては、2019年2月13日公表の数値に変更ありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,937	1,971
受取手形及び営業未収金	1,356	1,330
商品及び製品	72	52
原材料及び貯蔵品	387	388
その他	126	116
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	3,877	3,856
固定資産		
有形固定資産		
船舶	16,169	16,169
減価償却累計額	△10,294	△10,423
船舶(純額)	5,875	5,746
建物及び構築物	1,596	1,597
減価償却累計額	△1,104	△1,111
建物及び構築物(純額)	492	485
土地	286	286
建設仮勘定	2,983	4,607
その他	1,765	1,790
減価償却累計額	△1,502	△1,516
その他(純額)	263	273
有形固定資産合計	9,901	11,399
無形固定資産	129	129
投資その他の資産		
投資有価証券	1,547	1,607
繰延税金資産	302	406
その他	174	174
貸倒引当金	△45	△45
投資その他の資産合計	1,978	2,143
固定資産合計	12,009	13,672
資産合計	15,887	17,528

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	819	820
短期借入金	1,682	2,004
未払法人税等	16	20
賞与引当金	37	146
その他	564	548
流動負債合計	3,121	3,540
固定負債		
長期借入金	5,189	6,555
繰延税金負債	17	16
退職給付に係る負債	1,268	1,248
特別修繕引当金	166	186
固定資産圧縮未決算勘定	673	773
その他	103	108
固定負債合計	7,418	8,888
負債合計	10,540	12,428
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,100	1,100
資本剰余金	693	693
利益剰余金	3,324	3,092
自己株式	△9	△9
株主資本合計	5,108	4,876
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	116	122
その他の包括利益累計額合計	116	122
非支配株主持分	123	101
純資産合計	5,347	5,099
負債純資産合計	15,887	17,528

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)
売上高		
海運業収益	1,759	1,726
その他事業収益	686	681
売上高合計	2,445	2,408
売上原価		
海運業費用	1,668	1,684
その他事業費用	689	676
売上原価合計	2,357	2,360
売上総利益	88	47
販売費及び一般管理費	339	346
営業損失(△)	△250	△298
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
持分法による投資利益	20	15
受取手数料	5	7
賃貸料	3	3
その他	5	4
営業外収益合計	35	32
営業外費用		
支払利息	18	18
その他	2	2
営業外費用合計	21	20
経常損失(△)	△235	△286
税金等調整前四半期純損失(△)	△235	△286
法人税、住民税及び事業税	23	20
法人税等調整額	△102	△108
法人税等合計	△78	△88
四半期純損失(△)	△156	△198
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2	△10
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△159	△187



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)
四半期純損失(△)	△156	△198
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	6
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	△10	6
四半期包括利益	△167	△191
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△169	△181
非支配株主に係る四半期包括利益	2	△10

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	レストラン 事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,759	296	166	119	103	2,445	-	2,445
セグメント間の 内部売上高又は振替高	29	33	0	0	10	74	△74	-
計	1,789	329	167	119	114	2,520	△74	2,445
セグメント利益 又は損失(△)	△82	21	△86	7	10	△129	△120	△250

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△120百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△120百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	レストラン 事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,726	297	153	125	105	2,408	-	2,408
セグメント間の 内部売上高又は振替高	27	32	0	0	13	73	△73	-
計	1,753	330	153	126	118	2,482	△73	2,408
セグメント利益 又は損失(△)	△137	26	△95	16	20	△169	△129	△298

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△129百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△129百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。